

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

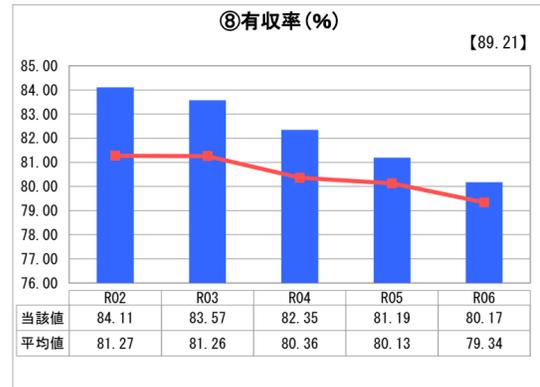
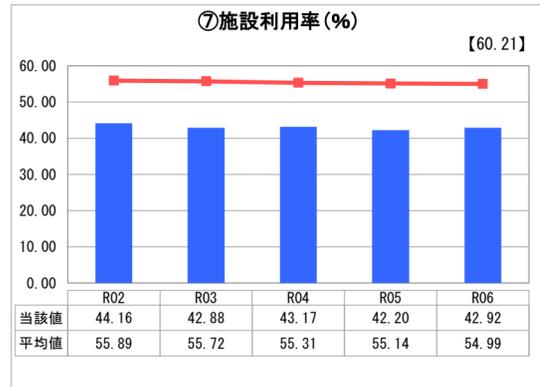
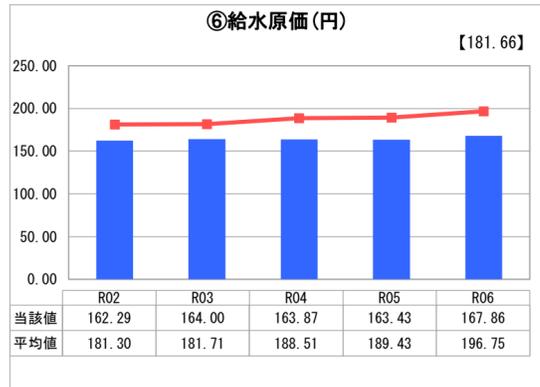
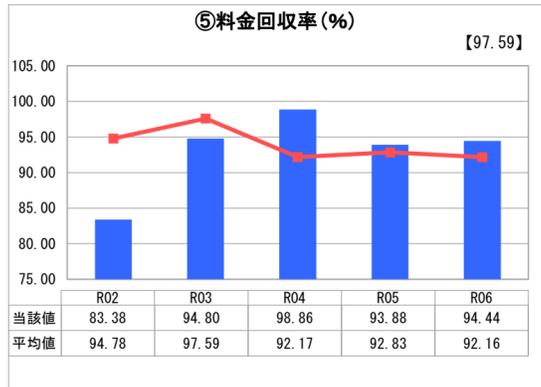
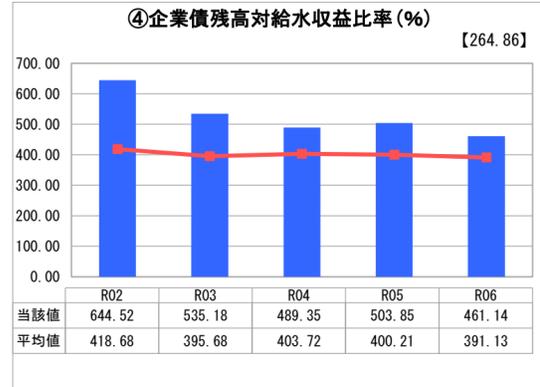
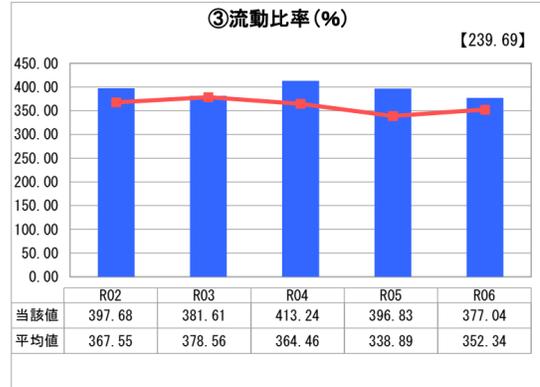
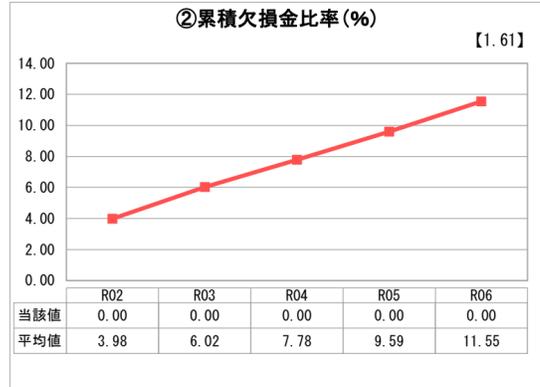
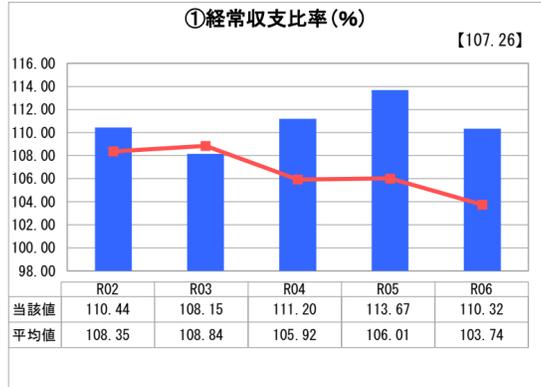
兵庫県 朝来市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	72.02	98.96	3,130	

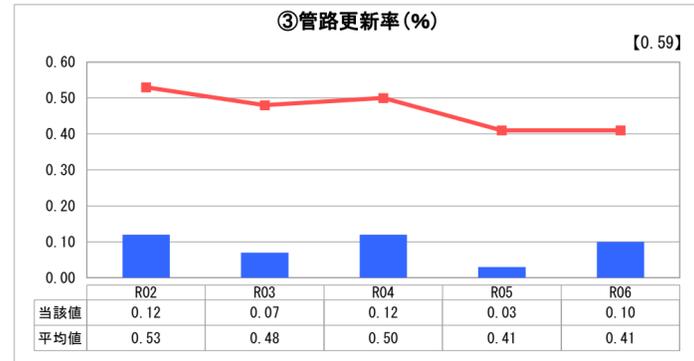
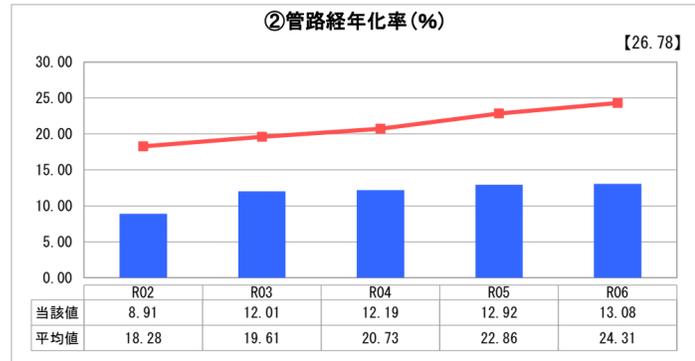
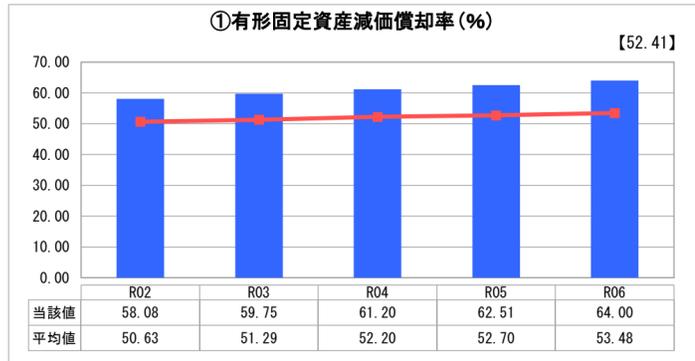
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,754	403.06	68.86
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,240	54.32	501.47

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[ ]	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【単年度の収支】  
 ①経常収支比率は100%及び平均値を上回っており、  
 ②累積欠損金比率も0%を維持している。黒字経営はできているが、更新投資等に充てる財源確保のため、更なる費用削減が必要である。  
 【債務残高】  
 ④企業債残高対給水収益比率は、平均値を上回っているが、企業債の償還が進んでいることも相まって、平均値との乖離幅も減少傾向にある。  
 【料金水準の適切性】  
 ⑤料金回収率は100%を下回っている。物価高騰対策としての水道料金の基本料金免除による給水収益の減少が影響しているが、この免除分は営業外収益の他会計補助金により補填をしており、給水収益に補填分を加味して料金回収率を算出すると100%を上回るようになる。  
 【費用の効率性】  
 ③流動比率は100%及び平均値を上回っており、⑥給水原価についても平均値を下回っているため、給水に係る費用が抑えられており、これを含む負債を現金等で賄うことができている。しかしながら、給水原価は年々増加傾向にあるため、更なる費用削減に努める。  
 【施設の効率性】  
 ⑦施設利用率は平均値を下回っており、給水区域が点在している地域条件並びに人口減少等による使用水量の減少によることが考えられるため、施設の更新にあわせダウンサイジングやスペックダウンを検討する。

### 2. 老朽化の状況について

②管路経年化率については、平成5年～12年前後に下水道の面整備に併せ布設替えをした結果、全国平均に比較して低い。しかしながら、浄水場などの基幹構造物や導・送・配水本管などの基幹管路は昭和40年から50年度に建設されたものがほとんどであるため①有形固定資産減価償却率は全国平均よりも高くなっている。このため、今後においては、基幹構造物や基幹管路の更新計画を策定し、計画的に更新を進めていく必要がある。

## 全体総括

本市の水道事業は、人口減少や市民、企業の節水意識の高まりを受け、料金収入の伸びが期待できない状況にある。一方で、水道施設の更新（耐震化）など収益に直結しない設備投資が必要となってきたことに加え、近年の物価高騰により引き続き厳しい状況にある。この厳しい状況を少しでも改善する方策として、AIを用いた管路劣化診断などの先端技術を積極的に取り入れ、無駄を省いた老朽管の計画的更新や漏水箇所早期発見と修繕による有収率の向上、施設維持管理の適正化による運転経費の抑制など、経営の効率化によるコスト削減を推進し健全経営に努めていく。  
 また、公営企業に携わる人材が不足しており、将来の人材確保に向けた、人材育成や技術継承にも努めていく。  
 将来にわたって水道事業を維持・継続していくためにも、投資と財源確保の均衡を考慮しながら、経営戦略等に基づいた水道事業を実施する。